

安倍政権の労働市場改革の現状と課題

昭和女子大学特命教授 八代尚宏

- * OECDで感じた働き方の違い
- * 日本の雇用問題の争点
- * 労働時間規制の厳格化を導入
- * 同一労働同一賃金の議論は不十分
- * 非正社員比率が上昇している理由
- * いかにして定年制をやめるか
- * 改革促進のポイントは年功賃金の廃止
- * 在宅勤務はなぜ進まないのか
- * 解雇の金銭補償を巡る問題
- * 外国人の雇用主への規制も不可欠



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は4年ぶりに八代先生においでいただきました。八代先生は97年に石橋湛山賞を受賞されて、ここで講演されました。

今日は、安倍政権が働き方改革を掲げていますが、どういう成果があるのか私にはよくわかりませんが、先生の目から見て、安倍政権の進んでいる働き方改革はどう考えられるのか、どこまで本筋で、どこからがそうでないのかをお話いただき、今後の課題についても伺いたいと思います。

（拍手） それでは先生よろしくお願いたします。

OECDで感じた働き方の違い

八代 皆様こんにちは。雪が降る寒い中においでいただきまして、ありがとうございます。今お話がありました、安倍政権については、私が昔大学で教えて頂きました浜田宏一先生が2年ぐらい前に有名な評価をされました。大学の成績だと、3本の矢のうち金融政策はA。これは浜田先生が金融拡張論者なので当然です。また財政政策はB。最後の構造改革はまったくできてないからEで、合わせてABEだと（笑）。私は財政の評価は少し甘すぎるのではないかと思います。しかし、構造改革に関しては、確かにその当時はそうかもしれませでしたが、その後、特に労働市場関係で大きな進歩はあつ